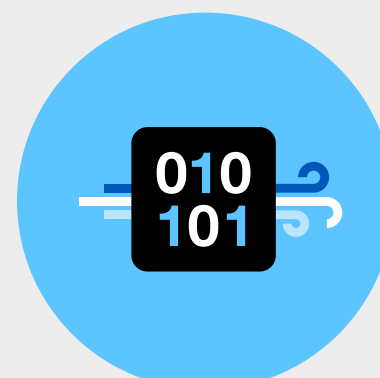


ビフォー

アフター



1



ボトルネックのある データ パイプライン

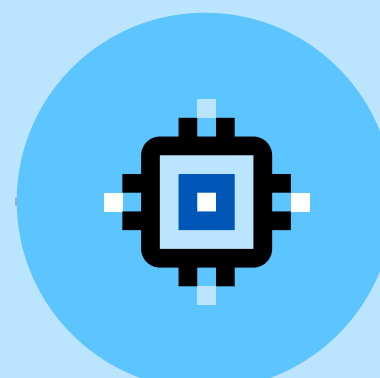
インフラに障壁やボトルネックがあると、パイプラインの中を流れるデータの邪魔になり、自由な流れが制限されます。

自由に流れる データ パイプライン

エッジからコア、クラウドまで、データ収集を効率化し、AIワークロードを加速してクラウドでの統合をスムーズにすると、パイプラインを通じて5倍のデータを処理できます。



2



プロセスに基づくスピード

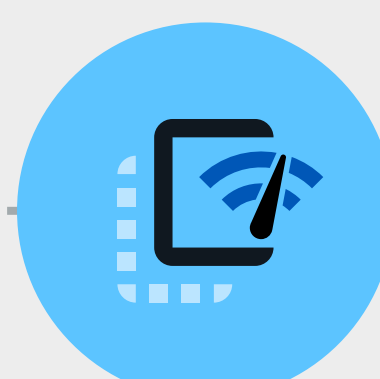
パイプラインを流れる膨大な量のデータによってインフラのコンピューティング、ストレージ、ネットワークが圧倒され、データの移動スピードが低下しています。

インテリジェンスに基づくスピード

GPU利用率95%以上を維持し、データ サービス階層を複数作成することで、1ミリ秒を優に下回るレイテンシで2GB/秒以上（ピーク時は5GB/秒）のスループット達成し、持続します。



3

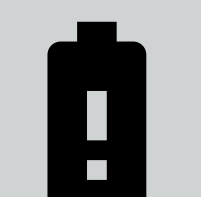


低速でオーバーサイズの データセット コピー

データセットのコピーに数日かかり、TCOのほとんどをストレージが占めているため、データのコピーを作成する度にインフラに新たなボトルネックが生じます。

高速の効率的な データセット コピー

コピーのスピードと効率が全面的に向上。数時間や数日ではなく数分で作成が完了します。保存の際のスペース効率にも優れ、ストレージ容量を最大90%削減できます。



4



基本のストレージ機能

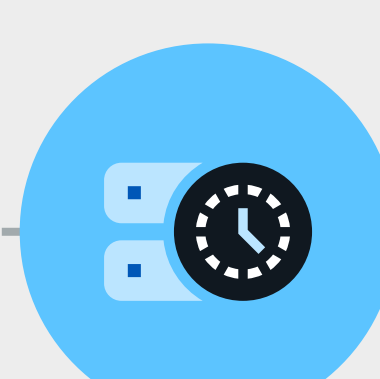
現在のストレージ機能でも悪くはありませんが、AIには不十分です。クローニングなど、もっと高度な機能があればよいのと思いませんか？

高度なストレージ機能

ネットアップの業界をリードするオープンソースのスタックに、革新的なKubernetes、Kubeflow、NetApp® Astra™ Trident、統合データ管理機能を組み合わせ、簡単な導入、データ モビリティ、場所を問わないクラウド接続を実現した、クラウドに最適なストレージです。



5



最初からお手上げ状態

AIインフラの構成に何日もかかるので、一体いつから始められるのか、誰にもわかりません。もしかしたら、いつまで経ってもスタートできないかもしれません。

思い立ったその日からスタート

Ansibleの統合により、AIインフラを約20分で構成できます。

AIによる変革を始める